

## OPCW初代査察局長 秋山一郎元陸将補（防大15期）の講演

（平和・安全保障研究所の月例研究会 平成25年12月16日（月））

<ノーベル平和賞授賞式を終えて>

化学兵器禁止機関（OPCW）の初代査察局長を務めた元陸将補・秋山一郎氏がオスロで12月10日に行われたノーベル平和賞授賞式から帰国し、平和・安全保障研究所の月例研究会において講演した。（12月16日（月）1800～2000当研究所会議室）

講演に際して、永岩俊道同窓会長（防大15期）も聴講し、活発な質疑応答に参加しつつ同期生の栄誉をたたえた。講演に先立ち、平和・安全保障研究所理事長の西原正先生（元防衛大学校長）を交えた懇談ももたれ、期せずして、防衛大学校同窓会による帰国祝賀会の状況を呈した。併せて、秋山氏よりノーベル賞委員会からの受賞状のコピーと受賞メダル（レプリカのチョコレート・メダル）を「本物はOPCW本部にあるので～」とややほにかんだ笑顔を浮かべつつ西原先生に手渡され、先生も「このような栄誉あふれるチョコレートは、冷凍庫で永久保存します」とにこやかに受けとった。

<講演（OPCWと化学兵器破棄）>

講演の当日早朝に帰国されたばかりであったが、力のこもった熱い想いを感じさせつつ、OPCWと化学兵器破棄の経緯、現状、問題点がレクチャーされた。機微にわたる内容も多い中、査察チームの人材選定・確保は特に重要であり、化学兵器に対する知識のみならず、軍事訓練を正規に受け各種のリスクに冷静的確に対処出来る人こそがOPCW活動の要と語った。ノーベル平和賞の式典に唯一参列した日本人として、日本全体の貢献が認められたと強調すると同時に「世界の平和と安定に対する貢献の一端を担う事ができ、大変光栄に思う」と述べた。（査察局をゼロから立ち上げ、57ヶ国出身の230名を指揮した。）

<若き後輩諸君へ>

質疑応答の最後に永岩会長より「本日の講師は防大15期生で私と同期生です。ですから秋山君と呼ばせて頂きますが、秋山君は防大15期の誉れであり、防大生の誉れです。そして日本の誉れです。若い後輩諸君への動機付けのために伺います。秋山君が努力され磨かれた資質のどの部分が評価されたとお考えですか」と質問がなされた。秋山氏は静かな語り口で、それぞれの時代や状況を思い起こしつつ次のように語った。

「多分に運命的でありましたが、国内の留学が困難な時代にイリノイ大学院の

「Teaching Assistant」の奨学金をもらって留学出来たことが一つの契機となりました。教養課程の「化学」の2クラスを担当したのですが、医学志望の学生が「A」成績がほしいため「B」をつけると毎日のように陳情に来ます。単位の半分が「A」でなければ自分自身が留年させられかねない状況にあって、必死で不慣れな英語を駆使してその学生達を説得して帰らせた事を覚えています。窮すれば通ず。それ以来、英語によるディベートは苦にならなくなり、国際機関で意思疎通を図る上でその英語力が大いに役立ちました。

また、査察局長となって、多国籍の部下達の融和を図り価値観を共有するために、全く日本的ですが盆暮れの年2回、自腹で浪花節的無礼講の宴会を開きました。国際機関でそ

の様な宴席は極めて珍しく、感謝されると共に胸襟を開いてくれました。人と人の心の触れ合いを大切にする想いは、防衛大学校や陸上自衛隊で育てていただいた無形の財産として感謝しています。

今回の受賞にあたっては査察チームを中心としたメンバーが、国を超えてお互いに認め合いひたむきに活動した事が評価の大きな要因となったと思います。その活動の過程で英語力や日本的価値観の共有方法が、私にとっては大いに役立ちました。その点を評価の一部分に入れていただいているのであれば、大変光栄なことだと感じております」2時間にわたる講演と質疑応答は、この後輩に伝える秋山氏の回顧で終了となった。余韻醒めやらぬ中、穏やかな表情と往時を振り返る際に時折見せる厳しい眼差しは、化学兵器削減の道程の厳しさと志を十二分に印象付けるものであった。

(広報担当 杉山伸樹 記)

#### <秋山一郎元陸将補の略歴>

1971年(昭和46年)防衛大学校卒業(15期 陸上要員)

(応用化学専攻 儀仗隊 現代史研究会)

1972年(昭和47年)3等陸尉任官

1979年(昭和54年)米国イリノイ大学大学院修了(理学博士)

帰国後、師団司令部化学防護隊長として勤務

1986年(昭和61年)2等陸佐、第101化学防護隊長等

1990年(平成2年)1等陸佐

新潟地方連絡部長、陸上幕僚監部装備部武器化学課化学室長等を歴任

1997年(平成9年) OPCWの初代技術事務局査察局長として出向(陸将補)

日本国内においてはオウム真理教第7サティアン解体撤去の査察統括

2002年(平成14年)陸上自衛隊化学学校長兼大宮駐屯地司令

OPCW勤務の功績により第1級防衛功労賞を授与

2004年(平成16年)OPCW技術事務局査察局長として再度派遣

2007年(平成19年)陸上自衛隊を勧奨退職

2009年(平成21年)事務局長から慰留されたが、勤務年限規定を順守してリストラ

された部下達とともに査察局長を退任

(通算在職年数10年間)

2013年(平成25年)化学兵器禁止機関のノーベル平和賞受賞列席

(講演に先立つ懇談にて)



前列左 平和・安全保障研究所理事長 西原正先生 (元防衛大学校長)  
前列右 OPCW初代査察局長 秋山一郎氏 (防大15期 陸)  
後列左 防衛大学校同窓会長 永岩俊道氏 (防大15期 空)  
後列右 平和・安全保障研究所事務局長 佐伯義則氏 (防大15期 陸)

(ノーベル賞授賞式典にて)



左側 秋山氏  
中央 OPCW査察団長のScott Cairns (カナダ軍大尉)  
右側 前検証局長のDr. Horst Reeps (元独陸軍大佐)

(ノーベル平和賞受賞状 (コピー))

